

ニュースレター あるがまま

NO.7 2014年4月

藤田千尋先生を偲ぶ

(錦糸町クボタクリニック、森田療法関連資料保存会運営委員)

近藤 喬一

藤田千尋先生とのお別れがとうとう来てしまった。奥様からの電話の知らせで知ったのみで詳しいことはわからない。が、呼吸器疾患で入院の後、自宅に帰られて亡くなられたと承知している。

「花発けは風雨多く、人生別離足し」とは、于武陵の有名な唐詩だが、言い得てまことに妙。長く昏い冬が終わり、花咲き乱れて華やかさが周囲に増してくると、一方で人々との辛く悲しい別れが訪れる。人生の両面だが、「浮生夢の如し」である。

個人的なことになるが、入局以来陰に陽に先生からのお世話を被ってきた。こうして先生との親しいつき合いを思い返してみると、そのときどきの彼のきびしい顔、いかにもあなどりが明々な表情、一転して心から愉快そうな顔が次々と走馬灯のように浮かびながら出てくる。そのどれもが私にとってこの上なく懐かしいのは、単に顔の表情だけではなく、それと結びついたさまざまの出来事や体験と一緒に思い出されてくるからだ。

こうした出来事や体験のなかで——それはあまりにもたくさんありすぎて、どれをここでとり上げてよいか選択に迷うが——、謡曲と森田療法を取り出してみよう。

謡曲は藤田家の教養でもあったのか、先生には親しいものようであった。同好の仲間数人が集まって観世の先生をお呼びして習った。そのけいこ風景も *rarae aves* (注・個々に独特の意) であって面白かったが、藤田先生とのかかわりで言うとまた別の面が見えてくる。

けいこ中は一番に堂々としていたのが、終わった後の飲み食いでそれこそコロリと一変する。真面目一方と思われた紳士がわれわれに調子を合わせてか、愉快的仲間になってしまう。元来は酒に弱い体質もあって医局ではついぞ見せたこともない姿の先生がそこに現出する。その後先生は、私が長年勤めた職場でも非常勤の医師として助けて下さり、親しくなっていたのだが、こういう一面を知ったのは謡曲のけいこがきっかけであったように思われる。

後者の森田療法だが、これは先生の数ある業績の中で特にとりあげるべきものだろう。英文の大著「Morita Therapy」もそうだが、私の興味を引くのはむしろ晩年の自分のクリ

ニックで体験された、集団という側面からみた入院森田療法での体験である。

と言っても私はそんなに詳しくは先生から聞いたわけではない。ただ「家族」共同体とか、確か「三者療法」とかいうことばを不確かに覚えているにすぎない。それでも私が興味を寄せるのは、後になって自分が職場で実際に体験したいいわゆる治療共同体的なやり方に何か通じるものがあつたからかも知れない。もっとも私の場合、森田療法そのものとは関係なかったが。いずれにしても、入院森田療法のなかには、治療的要因としていくつか重要なものがあると思う。

こうして思い出すままに書いていくときりがない。幽明境を異にしても、故先生と私の間の仕切りはなく、ただこうして流通無碍である。

藤田千尋先生を偲んで

(ルーテル学院大学名誉教授／森田療法保存会会長)

増野 肇

高良興生院・森田療法資料保存会の初代会長であつた藤田千尋先生が亡くなられた。

パーキンソン病で長らく患っておられたが、亡くなられる少し前まではお元気で、お正月に、「まあだ会」のメンバーの人たちでお訪ねしたときも、薬の副作用で身体の不自由な状態でおられたが、皆とお話をするのを楽しんでおられた。

「森田療法」に関する新著を書き上げられて、是非読んで感想を聞かせて欲しいとも言われたのは前年であつただろうか。

藤田先生は、私が慈恵医大の精神科に入局した時の医局長だった。

ヤスパースを読む会を提案されたり、一方では、江戸の情緒を味わうという洒落たグループもあり、なかなかユニークで面白い医局だった。

藤田先生に甘えて、いろいろな提案をして、劇団四季の俳優を呼んで話を聞いたこともある。私が心理劇をやりたいと言ったときに、高良興生院で心理劇を試みる提案をして近藤先生たちと一緒に取り組んでいただいたこともある。

私が、福井東一先生と組んで治療共同体の病院「初声荘病院」運営に手を貸すと、福井先生と同級だということもあつて、藤田先生が応援に来られたことも思い出す。

森田療法家としては、高良先生と共に自由な態度を持っておられたように思う。

その後、「常盤台神経科」を開業されて、森田療法実践の場を作られたのも知られていることである。

野中さんが作られた映画の中でも「常盤台神経科」は最もよく出来ていて、森田療法の素晴らしさを伝えているが、それも、奥様も加わっての家庭的な取り組みが、高良興生院よりも藤田先生の森田療法により近い感じを抱かせたものだと思う。

お正月に企画される美味しい御馳走をいただく集まりには、忙しく走り回っていた私はあ

まり参加できなかつたが、奥様の作られた美味しい後馳走をいただくと、連続テレビ小説「ごちそうさま」につながる幸せを感じたものである。

趣味は登山ということで、古希の記念に御夫婦で穂高に登られたことは、当時既に山登りを諦めていた私にとってはとても信じられないことだった。

御位牌の後ろに山の写真が飾られているのを見ても、まだ信じられない。多分、今は、千の風に乗って槍ヶ岳から穂高を走り回っておられるのではなからうかと思う。

一度、藤田先生と山の楽しさについてお話をしたかった。

御冥福をお祈りする。

2014年春の講座のお知らせ 「心の健康と森田療法」

増野肇先生による恒例の「春の講座」を開催いたします。

心の健康を保つために森田療法をどう活用していくか、先生の講話のみでなく、参加者との質疑応答などの交流をまじえた時間を持ちたいと思います。

本年は「水曜講話」の時間を使って開催します。

<心の健康と森田療法>

講師 増野 肇（精神科医、ルーテル学院大学名誉教授、森田療法保存会会長）

第一回 「心の健康とは何か」 5月14日（水）午後1時～2時半

第二回 「心の健康と森田療法」 6月11日（水）午後2時～4時

会場 就労センター「街」研修室

* 4月の「水曜講話」は都合により休会とします。

増野肇先生の水曜講話

昨年6月から毎月一回、第二水曜日に増野肇先生（精神科医、ルーテル学院大学名誉教授）を囲んでの水曜講話が始まり、今年3月までに9回開催されました。

この会は、お昼の12時半に就労センター「街」の一階喫茶（スワンペーカーリー落合店）に集まり、先生と一緒にランチをとり、その後2階資料室で、皆でゆったりとしたお話し合いのひとときを過ごします。

毎回、予約なしの参加自由です。保存会の会員は参加費無料です。（非会員は一回1000円）

皆さまのご参加をお待ちしております。

お問い合わせ 就労センター「街」内 森田療法保存会 03-3952-9975